

## 生誕 130 年記念 高島野十郎展

高島野十郎（1890-1975）は、福岡県久留米市に生まれ、東京帝国大学農学部水産学科を卒業後、念願だった画家への道を選びました。その孤独と旅を愛した生涯と、徹底的な写実による独自の絵画は、没後に光があてられ、今日では幅広い人気を得ています。

生誕 130 年を記念して開催する本展は、野十郎の生まれ故郷である久留米では、2011 年に石橋美術館で開催され大きな反響があった「高島野十郎 里帰り展」以来 10 年ぶりの、待望の回顧展となります。代表作を含む野十郎の豊富なコレクションを誇る福岡県立美術館の所蔵作品を中心に、近年の新発見の作品もあわせた総数 115 点により、いまだ多くの謎に包まれた野十郎の絵画世界の魅力をご紹介します。

展覧会名	生誕 130 年記念 高島野十郎展
会期	2021 年 1 月 20 日（水）— 4 月 4 日（日）
出品点数	115 点
会場	久留米市美術館（本館 2 階）
主催	久留米市美術館、朝日新聞社、テレビ西日本
特別協力	福岡県立美術館
企画協力	TNC プロジェクト
後援	久留米市教育委員会、LOVE FM
スペシャルパートナー	株式会社ブリヂストン
オフィシャルパートナー	学校法人久留米大学、株式会社筑邦銀行、株式会社森光商店 喜多村石油株式会社、株式会社ユー・エス・イー、株式会社 CIG
入館料	一般 1,000 円（800 円）シニア 700 円（500 円） 大学生 500 円（300 円）高校生以下無料 *身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳又は療育手帳等の交付を受けている方とその介護者 1 名は、一般個人料金の半額の 500 円となります。 *（ ）内は 15 名以上の団体料金、シニアは 65 歳以上。 *上記料金にて石橋正二郎記念館もご覧いただけます。
休館日	月曜日
開館時間	10:00-17:00（入館は 16:30 まで）
交通案内	JR 博多駅より JR 久留米駅まで新幹線で 20 分、快速で 40 分 福岡(天神)駅より 西鉄久留米駅まで特急で 30 分、急行で 40 分
本展に関するお問い合わせ	久留米市美術館 展覧会担当：中山景子 〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015（石橋文化センター内） TEL0942-39-1131/ FAX0942-39-3134

## 展覧会の構成と見どころ

高島野十郎の画業を、初期から晩年にかけての5章構成で紹介します。

### 1章 青年期

野十郎の仏教的な世界への関心は、10代の作品にすでに表れており、その後30代までの作品に特徴的な、暗い色調とうねるような形態には、同時代の岸田劉生ら草土社の画家たちの影響を見るることができます。青年期には謎めいた雰囲気の自画像を数点描いています。



①《絡子をかけたる自画像》  
1920年 福岡県立美術館



②《けし》1925年  
三鷹市美術ギャラリー

### 2章 滞欧期

1930年、40歳になる直前に渡欧した野十郎は、パリを拠点に美術館や教会を見て回り、写生に励む日々を過ごしました。滞欧中の作品には、それまでの緻密な描写とは異なる素早い伸びやかな筆遣いが見られ、初めて見る西洋の風景を前にした野十郎の感動が率直に表れています。



③《パリ郊外》1930-33年 個人蔵



④《梨の花》1930-33年 一般財団法人 恵愛団



⑤《イタリアの海 キオッジア漁村》  
1930-33年 個人蔵

### 3章 戦前期

帰国後久留米の生家に戻った野十郎は、庭の一角に小さなアトリエを建て、制作に打ち込みました。1936年頃に再び上京し青山に居を構えてからは、2年ごとに個展を開催するなど充実した東京時代を過ごします。終戦直前には、姉がいた福岡県八女市へ一時疎開もしますが、この戦前期には密度の濃い風景画や静物画を多数手がけています。



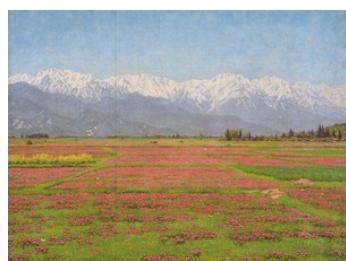
⑥ 《春雨》1935・44 年頃 福岡県立美術館



⑦ 《からすうり》1935 年  
福岡県立美術館

#### 4章 戦後期

4章では、戦後から 1975（昭和 50）年に亡くなるまでの 30 年間に描かれた作品を紹介します。70 代に入った野十郎は静かな環境を求めて千葉県柏市に移り、全国へ写生の旅に出かけました。戦後期の作品には、対象の細部まで緻密に描きながら構図にゆるぎない安定感がある、野十郎の写実のスタイルの完成を見るることができます。



⑧ 《れんげ草》1957 年 個人蔵



⑨ 《菜の花》1965 年頃 個人蔵

#### 5章 光と闇

蠟燭や月、太陽をテーマとした連作は、野十郎の画業を最も特徴づけるものです。仏教などに裏付けられた独自の思想が、光と闇という対極にある現象の追求へ導いたのでしょう。野十郎が描いた様々な光は、見る者的心の内まで照らし出すかのような静かな力に満ちています。



⑩ 《蠟燭》1948 年以降  
久留米市美術館



⑪ 《太陽》1975 年 個人蔵



⑫ 《月》1962 年 福岡県立美術館

## 関連事業

### 1. 美術講座「高島野十郎の選択と決断」 \*要申込・聴講無料

2021年2月27日（土）14:00-15:30（開場13:30）

- 講 師：西本匡伸氏（福岡県立美術館 学芸員）
- 会 場：石橋文化ホール（石橋文化センター内） 全席自由
- 申込方法：  
参加希望者全員の氏名（2名まで可）と代表の方の連絡先（郵便番号、住所、電話番号）をご記入の上、ハガキまたはFAXで申込み。1月29日（金）必着。応募結果は2月6日（土）までに応募者全員にお知らせします。
- 申込先：久留米市美術館・美術講座係  
〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015 FAX 0942-39-3134

### 2. みゅ～ず・メンバーシップ講座「野十郎が心を寄せたもの」\*要申込

2021年1月27日（水）14:00-15:00（開場13:00）

- 講 師：中山景子（久留米市美術館 学芸員）
- 会 場：石橋文化ホール（石橋文化センター内） 全席自由
- 参加費：みゅ～ず・ミュージアム会員は無料、みゅ～ず・スタンダード会員500円、一般1,000円
- 申込方法：石橋文化センター友の会窓口にて直接予約、または電話・FAXで予約。  
(電話 0942-33-2271 FAX 0942-39-7837)

## 図録について

本展の図録には、野十郎の《蠟燭》から着想を得た曲を作曲した、高木日向子氏（作曲家、大阪音楽大学非常勤講師）のコラムなどを掲載しているほか、野十郎が旅した福岡、東京、埼玉、奈良、千葉の地を、風景写真と作品画像で紹介するガイドマップ的な読みもの「特集 旅する野十郎」もあわせて掲載しています。

## 作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
6. 掲載見本を必ず1部お送りください。